



ハイブリッドE R室に穏やかな環境を！

ハイブリッドE R室に入ると、壁面に映える淡いピンク色の絵画が目に入ります。

ー「穴道湖のシジミ採り」ー早朝の穴道湖で行われるシジミ採りの風景を描いた、安野光雅画伯の作品をパネルにしたものです。

安野画伯は島根県津和野町出身で、作品の多くが海外を含め高い評価を受けています。当院との親交も深く、これまで病棟へ絵画をご寄贈頂き、院内施設で作品の展示も行っています。

近年、医療現場における環境のデザイン化は年々増加しており、従来の医学的技術プロセスやサービスの他に、スタッフや患者さんへの快適さの提供も重要となっています。医療施設において診察・処置を行う室は無機質な素材や色になりがちですが、今回のハイブリッドE Rでは壁面の一部を絵画等のデザインパネルとする事により、穏やかな環境の提供を行いました。極度の緊張の中で行われる、重症外傷診療等の処置に携わるスタッフの精神的ケアに少しでも役立てばと思います。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

9月15日～10月14日

対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
9/15(金)	9:30～11:30	平成29年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学病院
9/18(月・祝)	14:00～16:00	潰瘍性大腸炎、クローン病、膠原病、リウマチ性疾患の若い患者さんと家族の方へ「病気と薬と妊娠・授乳」	★くにびきメッセ 501大会議室	一般	膠原病内科
9/24(日)	13:30～15:30	松江市民フォーラム 島根大学病院の最新治療2017秋	★松江テルサ 4階大会議室	一般	島根大学病院
9/26(火)	17:45～19:45	島根大学がん医療従事者研修会(緩和ケア地域連携カンファレンス)「がん医療における緩和ケアと地域連携の今後の方向性」	みらい棟4階ギャラクシー	医療 本学	島根大学病院
9/30(土)	8:30～17:00	第41回 SSTT(外傷外科手術治療戦略)座学1日コースin出雲	みらい棟4階ギャラクシー	医療	SSTT運営協議会
10/3(火)	18:00～19:00	看護師のためのがん診療セミナー 「①患者支援、②心電図(モニター、十二誘導)」	B病棟4階 カンファレンスルーム	医療	先端がん治療センター、 腫瘍・血液内科

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2017年

9月
Vol. 47

NEWS

CONTENTS

- ・高度外傷センター棟が完成しました
- ・ハイブリッドE R室に穏やかな環境を！
- ・島根大学医学部における
研修会・講演会・セミナー開催情報



写真1: ハイブリッドER室



写真2: 外傷初療室



写真3: Acute Care Surgery 講座医局

高度外傷センター棟が完成しました

高度外傷センター センター長

わたなべ ひろあき
渡部 広明

平成29年8月5日(土)、待望の高度外傷センター棟が完成し、記念式典と内覧会が開催されました。記念式典には県内外から70名のご来賓の方々にお越しいただき、溝口善兵衛島根県知事、森本紀彦島根県医師会長からのご祝辞の後、服部泰直学長と井川幹夫病院長が挨拶を行い、盛大に催されました。式典終了後はセンター正面にてテープカットが行われ、引き続きセンター内部の内覧会が行われました。午後からは一般市民の皆様にも自由に当センターの最先端診療器械をご覧いただく内覧会が開催され、多くの皆様にご来場いただきました。

完成した高度外傷センター棟は3階建てで、1階部分が外傷診療フロア、2階がAcute Care Surgery講座医局、3階が手術室2室となっています。

1階部分の外傷診療フロアは、重症外傷患者さんの診療を行うエリアで、ハイブリッドER室と外傷初療室で構成されています。高度外傷センターに入ると前室正面に高度外傷センター初療室が配置されており、前室左側に救命救急センター入り口があります。高度外傷センターと救命救急センターは一つのフロアで連続しており高度な連携が可能となります。

高度外傷センターの南側には最重症の外傷患者さんの診療を行うユニットであるハイブリッドER室が設置されています。ハイブリッドER室は、患者さんを移動することなく救急初期診療、緊急CT検査、緊急手術、緊急血管造影およびIVR治療が実施できるユニットで、ハイブリッド手術室機能に初期診療機能を加えた最先端救急診療室です。現在日本には8台しか存在せず、国公立大学では初の導入となります。これまで様々な診療室へ移動しないと治療完結できなかった重症外傷患者さんを、移動することなく迅速に治療できる環境となることで従来救命することが困難であった症例の救命が期待されています。



※写真3

※写真1

※写真2

ハイブリッドER室を使用中でも次の重症外傷患者さんが受け入れできるように、同室隣に3床の診療台を装備した初療室を設置しています。ハイブリッドER室を含めると同時に4件の重症外傷患者さんの搬入に対応できる体制となっています。初療室も手術室空調としており緊急手術に対応可能で、手術術野情報を診療スタッフで情報共有できるビデオ配信システムを導入しています。また初療室内には複数傷病者を受け入れマネージメントするコントロールセンターを設置し、当センター内の診療患者さんに加え、救命救急センター内で診療する患者さんの情報も一元的に把握できるシステムを整備しています。

また、初療室の東隣には広めのホールを設置しており、災害時や多数傷病者発生時には最大30名程度の黄患者さん(中等症患者さん)の受け入れとトリアージおよび初期診療が可能なエリアを用意しています。

2階の医局内には災害発生時のDMAT指揮本部機能を持った災害情報センターを設置しています。当センターおよび救命救急センター内での診療の状況や診療内容を把握できる初期診療記録システムを導入しており、本情報端末から医局内でも診療情報をリアルタイムに把握することができるほか、EMIS(広域災害救急医療情報システム)の情報を表示できる大パネルの設置など、災害情報の取得と指揮に最適な環境を整備しています。

当センターの完成によりこれまで以上に充実した外傷診療を県民の皆様にご提供できるものと考えております。





島大病院ニュース 2017年9月

ご報告

清掃ボランティアさんにお世話になっています

当院では、清掃ボランティアさんにお世話になり、定期的に環境整備を行っていただいています。

今回は、揚東クラブのボランティア活動のご報告です。

平成29年6月24日(土)8時～9時の間、揚東クラブ(石飛 誠二 会長)の皆さん総勢25名により、大学正門付近から附属病院正面玄関周りの除草・清掃活動を行なっていただきました。

揚東クラブの皆さんには、毎年この時期に作業をしていただいております、写真のとおり丁寧な手作業で細かい所もとてもきれいにしていただきました。

地域のボランティア活動に支えられ、患者さんも快適な環境の中で気持ちよく治療を受けていただけることと思います。そして、当院も医療を通して地域貢献できるよう努力したいと思います。

揚東クラブの皆さん、その他のボランティアの皆さん、いつも有難うございます。



問合せ先 医療サービス課ボランティア担当 TEL 0853-20-2068



平成29年9月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2017年9月

ご報告



メディカル・アカデミーを実施しました

島根県主催「メディカル・アカデミー」は、2泊3日の日程で行なわれ、中学生が地域医療の現場で働く医師や看護師の思いや願いを直接聞き、医療体験や医療施設等の見学などを通して、地域医療への思いを育み、将来の職業選択に繋げることを目指す事業です。

8月1日(火)、県内の39名の中学生が、みらい棟ギャラクシーで、クリニカルスキルアップセンターの山本奈美インストラクターから心肺蘇生法を学びました。

生徒たちは13グループに分かれ、海で溺れた人を助けるという状況設定で、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用法などの習得を目指しました。本学学生の正確な手技を手本に、役割を交代しながら、真剣に取り組んでいました。

夜の部では、県立青少年の家(サンレイク)において本学学生との懇談会も行なわれ、本学学生が丁寧に質問に答え、盛会でした。医療職を志す中学生にとって、大変充実した時間となりました。



心肺蘇生法の実習



平成29年9月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2017年9月

ご報告



縫合手技体験

「高校生手術部体験学習」を開催しました

7月26日(水)、当院が主催している「高校生手術部体験学習」を開催しました。これは、医療従事者を目指す高校生を対象として、平成19年より毎年開催しているもので、普段入ることのできない手術部等の現場を体験することで、将来の医療従事者を増やすことを目的としています。今年は県内9校から25名が参加し、①手術見学、②縫合手技、③腹腔鏡手術シミュレーション、④臨床工学技士業務見学の各プログラムを体験しました。高校生たちは、普段入らない現場とあって緊張した表情で手術見学等を行っていました。

また体験終了後には、高校生からたくさんの質問があり、病院長や手術部長の佐倉医師が丁寧に答えていました。

高校生からは、「とても貴重な経験ができた。」「医療職に就きたいと改めて思った。」などの感想が寄せられました。



手術見学



島大病院ニュース 2017年9月

ご報告

中学生地域医療現場体験を行いました

島根県主催の本事業は、地域の医療現場での体験学習を通して、地域医療従事者をめざす中学生の育成を図るもので、今年で7回目の開催です。

8月3日(木)、県内の中学生10名が手術部・リハビリテーション部・内視鏡手術トレーニングセンターで見学および体験実習を行い、実習終了後の質疑応答では、井川病院長が質問を受けました。

「手術見学で、とても細かい作業や、看護師、麻酔科医が実際に働いているところなど、実際にこんな風に働くのだと、見ることで良かった。」「療法士は患者さんの『やりたい』を実現させる仕事、という言葉が心に残りました。」などの感想があり、参加した生徒は、経験を通して医療現場や職業についての理解を深めていました。



手術部見学



リハビリテーション部見学



ロボット手術シミュレータの体験





島大病院ニュース 2017年9月

ご報告



Student Doctor認定証授与式を行いました

医学部 学務課長 さかもと えいじ
坂本 英治

医師を目指して医学科に入学した学生は、4年間で医学の専門知識と医療技術を学習した後、実際に患者さんに接する臨床実習に臨みます。「Student Doctor認定証」は、全国共用試験であるコンピュータ客観試験(CBT)と客観的臨床能力試験(OSCE)に合格し、臨床実習を開始する前に備えておくべき知識・技能・態度を身に付けていることが認められた証として授与されるものです。

本学部では、去る7月27日(木)午後5時から臨床講義棟臨床大講堂において、平成29年度のStudent Doctor認定証授与式を行いました。

授与式では、学生代表に認定証が授与された後、山口医学部長から祝福の言葉とともにこれから臨床実習に臨むに当たっての心構えなど激励の言葉が贈られました。

白衣に身を包んだ医学科5年生108名は、緊張した面持ちの中に新たな決意を表していました。学生達はこの認定証を胸に、患者さんから信頼される医師をめざして、真摯に臨床実習に取り組んでくれるものと思います。



島大病院ニュース 2017年9月

ご報告

ホッとアートプレゼント ～ビリとブッチー クラウンアートシアター～を開催しました

小児センター病棟 病棟保育士

つばき あつみ
椿 敦美
おがわ こずえ
尾川 梢

7月25日(火)にNPO法人 しまね子どもセンターの皆様にご協力をいただき小児病棟プレイルームにおいてホッとアートプレゼント～ビリとブッチー クラウンアートシアター～を開催しました。クラウンとは日本でいうピエロのことで、派手な衣装と化粧をしてみんなを楽しませてくれるコメディアンです。

ビリとブッチーという二人のクラウンが、音楽とともに手品やバルーンだけではなく笑いを交えたサクソとスネアの演奏など、次々と演技を披露して見せてくれるビリとブッチーに、子どもたちの顔は笑顔と真剣な眼差しとでキラキラ輝いていました。

その後は子どもたちやご家族のリクエストに応じてバルーンのプレゼントがありました。「ティアラ」「自転車」「ハート」などのバルーンがビリとブッチーから手渡され手元に届くと、子どもたちは入院中の検査や治療を忘れて今までで一番嬉しそうな笑顔を見せてくれました。

1時間という短い間でしたが、小児科病棟がどこかのホールのような空間になり、子どもたちはもちろん家族の方も笑顔あふれる一時となりました。ビリとブッチーのお二人の演技パワーで子どもたちが元気になり、一日でも早く笑顔が取り戻せる日がやってきますように…





島大病院ニュース 2017年9月

ご報告



緩和ケア病棟で夏祭りを開催しました

緩和ケアセンター センター長 なかたに としひこ
中谷 俊彦

8月1日(火)の夕の刻、C病棟5階のラウンジでは、迫り来る「古志夏祭り花火」に備え、漂う演歌にあわせてシロップ多彩な「銘氷かき氷」、猛暑鍛錬極上味「西瓜」、本格綿菓子実演生作成が無料で振る舞われ、磁石式袋菓子釣り放題大会も皆様のご期待をぐいぐい盛り上げてくれました。

気になる天候は絶好の晴天微風!古志方向は出雲の黄昏が絶景グラデーションを放ち、準備スタッフの浴衣シルエットを絶妙に描出しています。もう待てません。打上げ時刻前の屋上庭園では、期待満載の瞳が一斉に古志大橋に向けて放たれています。待ち望んだ燦めく初発後は、日本の夏・伝統美の競演連発でございました。患者さん・ご家族皆様が花火を満喫されたことは、その後ろ姿と1人も途中でお帰りにならなかったことでよく分かります。このような素晴らしい夏祭りにご参加いただいた患者さんご家族、準備・運営に尽力してくれたスタッフに深謝して、夏祭りのご報告といたします。



島大病院ニュース 2017年9月

ご報告

「高校生一日看護体験」を実施しました

看護部 部長 かんだ まりこ
神田 眞理子

7月28日(金)、高校生に看護の心や看護職への関心を高めてもらい、一人でも多くの生徒に看護職を目指してもらうことを目的に、島根県主催の「高校生一日看護体験」を実施しました。市内11校、23名の高校生が参加し、10部署に分かれてケアなど看護師・助産師と一緒に看護の場면을体験しました。

クリニカルスキルアップセンターで「Simman3G」、「フィジコ」の模型を使用しての呼吸音の聴取、呼吸状態の観察、脈の測定方法と不整脈のふれ方を体験し、「グリッターバク4」で手洗いの方法について手洗い前後で比較をし、確認しながら体験をしてもらいました。

体験終了後には意見交換を行い、部署の看護師長からのコメントや助言をもらいました。高校生からは「看護師の仕事内容がわかり、いろいろ学べた」、「今後の進路の参考になり、看護師になりたい」、「人のためになる、やりがいのある仕事であると実感した」等の感想が聞かれました。



平成29年9発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成29年9発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





人生の締めくくりを考える ワークショップを開催しました！

地域医療支援学講座 准教授

さの ちあき
佐野 千晶

医学部学生たちから、将来なりたい医師・看護師像として「患者さんとの距離が近い医師・看護師になりたい」との声をよく耳にします。そこで当大学において6月17日(土)実施の「総合診療ワークショップ」では飯南町立飯南病院(角田耕紀院長)の企画で、「人生の締めくくりをみんなで考える」といった若い学生にとっては実感が薄い上に重いテーマに敢えて挑戦しました。飯南町をフィールドにされている医師、歯科医師、看護師、病院事務、保健師、社会福祉士の10名以上のスタッフに、講義やロールプレイ、グループワークなどに大活躍



して頂きました。(1)アドバンス・ケア・プランニングの講義、(2)「このあと、どうしちゃう」の絵本を使っでの話し合い、(3)退院支援カンファレンス「シナリオ：おうちに帰ろう」では学生もスタッフの一員に扮して一緒にロールプレイ等を行い、参加者皆がひとときも退屈することのない深い内容の学びでした。医学科・看護学科を含む参加学生12名の中には、臨床講義をまだ履修していない低学年生も多かったのですが、多職種連携、地域包括ケア、終末期医療等について理解が深まり、これから勉強していかなくてはならない事柄がみえてきたといった感想が寄せられました。今後も、様々な学生たちが積極的に参加してくれることを期待しています。

